

多摩東京移管130周年

2023年は、多摩地域が神奈川から東京に移管されて130年となります。

この新たな「東京の誕生」ともいえる当時を振り返り、未来を拓く素敵な地域づくりについて、一緒に考えてみませんか。



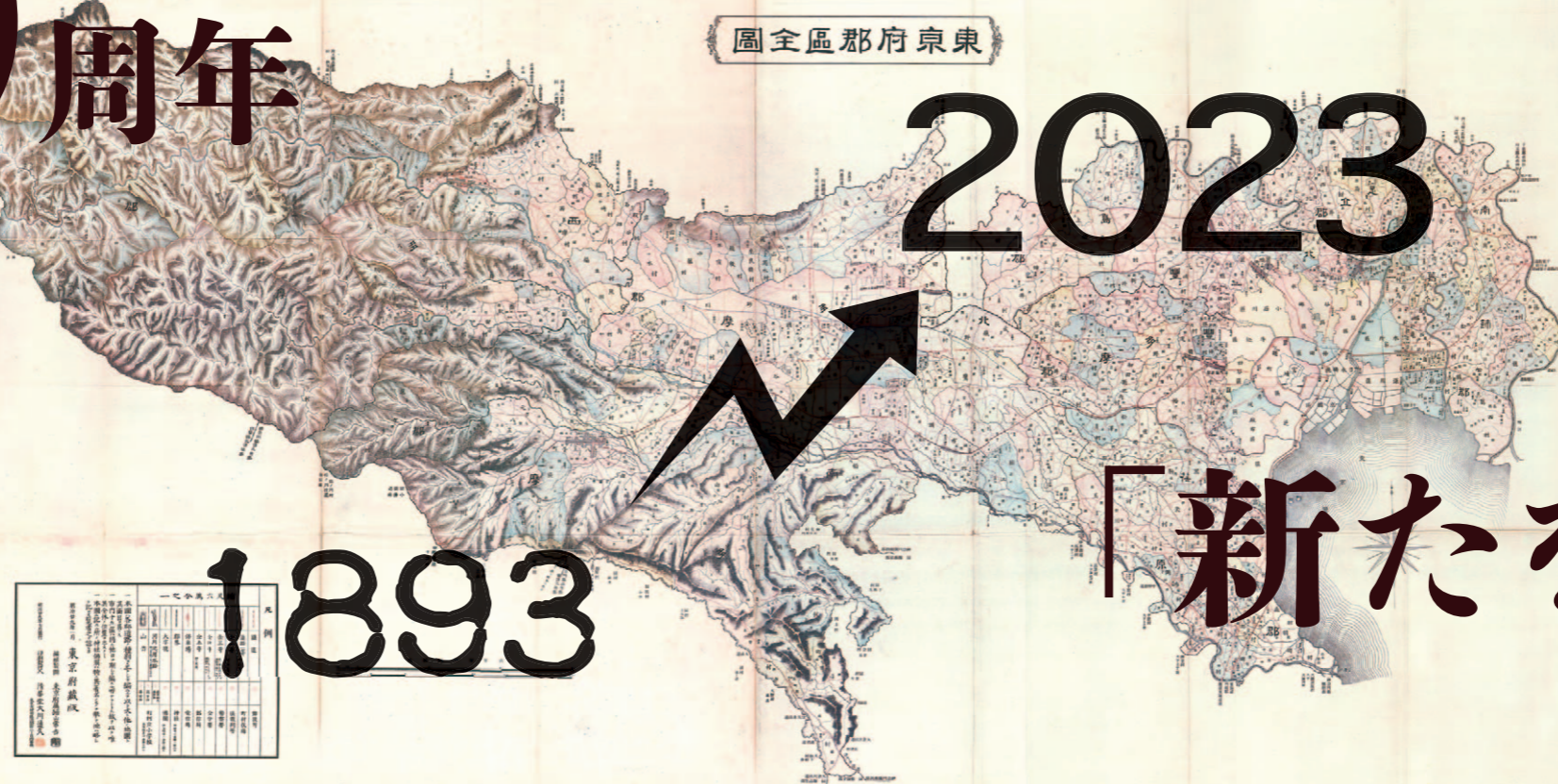
宮城（現・皇居）付近を行進する都制編入の陳情団。多摩地域選出の代議士、府会議員、各市町村長らが参加する組織（『東京と三多摩』より）



南側上空から見た立川飛行場（昭和初期）（『写真集たちかわ』より）

130周年

東京府郡区全圖



1893

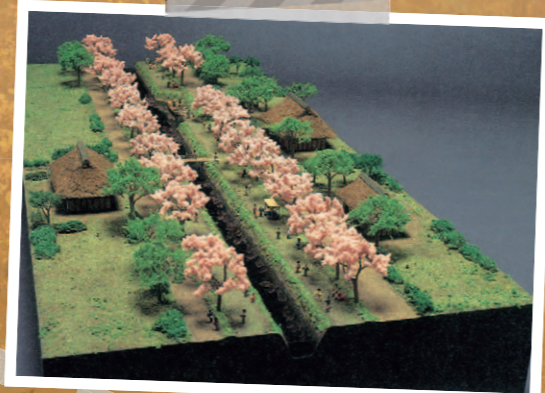
2023

「新たな東京」誕生

東京府郡区全圖（明治29年）（東京都公文書館所蔵）



甲武鉄道（現・JR中央線）開業当時の錦絵（たましん地域文化財団所蔵）



玉川上水通船模型（小平市中央図書館「多摩東京移管前史資料展図録」より）

多摩地域は現在、人口約430万人、東京のおよそ3分の1の人口を擁し、面積はおおよそ2分の1を占めています。この他にも事業所や大学の集積、命の水を生み出す豊かな山や川など東京に欠くことができない地域となっています。

この地域が神奈川から東京に移管されて130年。長い歴史の中、多くの多摩地域の住民の思いがつながり、今の多摩地域を、世界都市東京を形成していると言えます。

そして、この多摩地域のさらなる活性化は、東京の未来を拓く新たな可能性の源泉となります。そこで（公財）東京市町村自治調査会では、多摩地域と、静岡から東京に移管されて145年となる島しょ地域とともに、東京都とも連携しながら新たな未来づくりの契機となる取組を展開してまいります。